# 西洋思想史　　山城 貢司

## 授業概要

西洋思想史の主要潮流について、宗教・哲学の両側面から時系列に沿って講義する。細々とした情報を暗記するよりも、各トピックについて、最も重要な概念や論点を本質的に理解することに重点を置きたい。初回は、思想史を学ぶ意義、そして「西洋」とはそもそも何を意味するのかについて共に考える。コースの前半（第２回から第９回）では、西洋思想の二大源泉である一神教とギリシア哲学の展開と交錯を、古代から中世を経て近代の始まりに到るまで概観する。コースの後半（第 10 回から第 15 回）では、近代ヨーロッパにおいて生じた新たな一連の哲学的問いが、多様な思索を生み出しつつ、認識論・政治経済イデオロギー・社会倫理・自然科学といった諸分野を基礎付けていった過程を辿っていく。

## 授業計画

| | |
|---|---|
| 第 １ 回 | イントロダクション：思想史を学ぶということ/「西洋」とは何か？ |
| 第 ２ 回 | 旧約聖書の思想 |
| 第 ３ 回 | ギリシア哲学（１）ソクラテス以前からプラトンまで |
| 第 ４ 回 | ギリシア哲学（２）アリストテレスからヘレニズム哲学まで |
| 第 ５ 回 | ユダヤ教 |
| 第 ６ 回 | キリスト教 |
| 第 ７ 回 | イスラーム |
| 第 ８ 回 | 中世哲学：啓示と哲学 |
| 第 ９ 回 | 宗教改革・ルネッサンス・科学革命 |
| 第 10 回 | 合理主義と啓蒙思想 |
| 第 11 回 | 近代政治思想：マキャベリズム・絶対主義・社会契約論 |
| 第 12 回 | イギリス経験論とドイツ観念論 |
| 第 13 回 | 功利主義・進化論・プラグマティズム |
| 第 14 回 | 現代思想の源流（１）マルクス主義と精神分析 |
| 第 15 回 | 現代思想の源流（２）生の哲学・現象学・記号論 |
| 第 16 回 | 最終試験 |

## 到達目標

基礎教養の一環として、真理・存在・自由・善・徳・権力・法といった根本的な諸概念に関して、どのような思想的立場が、いかなる背景のもとに主張されてきたのかについて、簡潔かつ体系的な知識を習得する。各思想の優れた点や批判すべき点も含めた思想史的意義をしっかり理解することが大切である。さらに、授業を通じて心に芽生えた知的・哲学的な関心を各自が大切に育てつつ、自らの関心に沿って、今後さらなる探求を行なっていくための土台が構築された暁には、本講義の目的は十全に果たされたと言えるだろう。

## 履修上の注意

予備知識は特に必要ないが、高校倫理の教科書ないしインターネット上の情報源を用いて、コース開始前に西洋思想史の概略を掴んでおくと、理解度が格段に高まるはずである。原則として毎回出席し、集中して聴講すること。授業自体は通常の講義方式で行うが、ディスカッションに重点を置くことで 、主体的な参加を促したい。さらに、概説的な説明に加えて、精選されたテクストを丁寧に読んでいくことによって、血の通った学びを目指す。授業中や授業後の質問や反論を大いに歓迎する。考えることの喜びを知る機会となることを切に願う。

## 予習・復習

毎回授業後に、復習と次回の予習を兼ねた簡単な小テスト/リアクションペーパーを配布し、翌週に回収するという形式をとる。

## 評価方法

小テスト/リアクションペーパー（５０%）、最終試験（５０%）の総合評価とする。

## テキスト

教科書は使用しない。毎回、レジュメと参考資料を配布するほか、意欲のある学生向けに参考文献を指示する。